

入野小学校 校長室だより

2015. 5. 22(金) No. 7 文責：芝

本の魅力がいっぱいの時間

昨日、「選書会」がありました。そのことを去年の『校長室だより』ではどう書いていたかな、と見て悩んでしまいました。最初の4行が今回書こうとしていた内容と同じなのです。しかたありません、その4行だけは昨年とほぼ同じ文章を使います。お許してください。

21日(木)、「選書会」がありました。選書会というのは、子どもたちが実際に本を見て、選び、投票した結果をもとに今年度購入する本のリストを作成するというものです。



子どもたちが朝マラソンをしている時間帯に、業者の方と職員で体育館中に本を並べました。あとで数えてみると、子ども向けの本は約900冊。なかなかの冊数です。

準備が整ったら選書会スタート。1時間目は低学年。体育館に集まって選書会のルールや注意事項を聞いたり、業者の方から本の紹介をしてもらったり、読み聞かせをしてもらったり…。そして、その後は、たくさんの本の中をまわってお気に入りの本を3冊選びます。3冊の中で一番のお気に入りに選んだ本には5ポイント、後の2冊には1ポイントずつカウントされ、全校みんなのポイントを集計して図書室に入れる本のリストが出来上がる、という仕組みです。



上の写真は1～2年生の様子。こんな感じに1人で本の世界に入る子もいれば、3～4人が同じ本に引きつけられて話し合っている様子もありました。色々な様子が見られましたが、共通しているのは「どんな本だろう？」と本に興味津々でこの時間を過ごしたということ。大人になって、この選書会が読書好きになるきっかけだったと思い出してくれる子どもがいればうれしいことだと思います。

この選書会、私も2年見てきて、業者の方は単にビジネスだけでやっているのではないな、という感じがします。子どもたちに、本を通して世界が広がることを知って欲しいという「思い」というか、「願い」のようなものを感じます。今年も低・中・高学年それぞれに何冊かずつ読み聞かせをしてくれたのですが、今年のテーマは低・中・高共通して「平和」だったようです。そんな「平和」に関する本の紹介を聴く高学年の子どもたちの背中を見ながら思い出したことがあります。

何年も前のことですが、日本人の記者が紛争の激しい地域の子どもにインタビューしたときのこと。記者が子どもに、「大人になったら、何になりたい？」と、質問すると、その子どもは、「生きていたい。」とだけ、答えたそうです。

その子がどのような経験をしていて、何を感じているのか、想像するだけで胸が痛くなります。いえ、想像すら追いついていないでしょうね…。私たちは、もっと知らなければならぬ世界がある、確かに、そう思います。